

## 嘉手納基地のボランティア、空港通りを清掃

第18航空団広報局

2012年6月16日午前、嘉手納基地の「トップ3」といわれる上級下士官やその家族のボランティアが、沖縄市の空港通り（第2ゲートへ向かう通り）歩道を清掃しました。「トップ3」とは、一等軍曹、曹長、上級曹長の階級の総称で、下士官でも上位にあたり、若い空軍兵に模範を示す立場にあります。この清掃活動には嘉手納基地司令官マシュー・モロイ准将や、マーク・マーソン最上級曹長といった、同基地最高幹部も参加しました。マーソン上級曹長は、「私たちは、こちらにゲストとして滞在しています。沖縄の人々と同様に、私たちもここを自分たちの『家（ホーム）』として、誇りをもって大切にしていることを知ってほしい」と述べました。航空団司令官モロイ准将も、「子供たちが、地域のボランティア活動に参加している様子を見ると、大変心が温まる思いです。」と感心した様子で、さらに「次世代の子供達にとっても、私達大人がこのように地域におけるボランティア活動の意義を示すことで子供達も何かを学ぶことでしょう」と述べ、参加者と一緒にゴミ拾いを続けました。



(写真全て、米空軍：マリア・ジェンキンス上等兵撮影)

## CONTENTS



PART I

- 嘉手納基地のボランティア、空港通りを清掃
- NCOAボランティア、老人ホーム沖縄一条園で草刈作業
- 配偶者のための夕食会
- 嘉手納基地ボランティア、嘉手納外語塾生と英会話交流
- スピーチプログラム - 講師 ポロック中佐
- 嘉手納基地交通ルール

PART II

- SPOTLIGHT : 日本人従業員の紹介
- 整備部隊ボランティア、あさひ寮の子供たちと交流
- 沖縄商工会議所の懇親会
- 嘉手納町議会基地対策特別委員会 嘉手納基地内を視察

## NCOAボランティア、老人ホーム沖縄一条園で草刈作業

第18航空団広報局



(写真提供：NCOアカデミー)



作業後に沖縄一条園から、お菓子とサツマイモてんぷらや魚てんぷらが振舞われ、ボランティア達は暑さで疲れた様子を見せながらも、清潔な笑顔で頬張っていました。

## 配偶者のための夕食会

第18航空団広報局

2012年6月16日（土）、初夏の暑い日差しも残る夕方、嘉手納基地内のシリング・コミュニティセンターで、ある夕食会が開催されました。これはアフガニスタンやその他の遠方へ任務のため派遣されている軍人の妻や夫である配偶者を招いて開かれた夕食会です。軍人家族支援センターとよばれる空軍兵の家族の支援を行う事務所が中心となり月一回開催されています。この食事会の特長は、食事や飲み物をボランティアが持ち寄るというしくみです。適量の食べ物や飲み物がきちんと集まるよう、また会場の設営など、基地内の部隊が交代でその「仕事」を引き受けます。今月は、航空団幕僚（Wing Staff Agency）構成部隊がその役割を担いました。WSAには会計監理部、法務部、広報局、司令部など小規模の部隊があります。16日行われた夕食会には、およそ240人の参加者があり、そのほとんどが夫人・子供達です。BBQを中心とした肉料理、サイドディッシュ、菓子類、飲み物などいろいろな食事が届けられました。このような夕食会の最大の目的は、

2012年6月16日（土）、嘉手納基地のNCO Academy（下士官学校）の2012年第5期生よりボランティア27名が沖縄市の特別養護老人ホーム沖縄一条園を訪れ、園内の草刈作業を行いました。下士官学校とは、嘉手納基地だけでなく太平洋の空軍基地（横田基地やアンダーセン基地など）から一等軍曹の隊員が集まり、約6週間の研修を行う教育機関です。

今回、沖縄一条園の施設内にある花壇、庭、フェンス沿いや駐車場に生えている雑草の草刈りを行いました。ボランティアとして参加したアシュレー・デューク1等軍曹は「この機会を通して地元沖縄の方々のために少しでも役に立つことができ嬉しく思います。今日私が経験したこと、そして感じた充実感をもっと多くの空軍兵が得ることができればと思いました。」と話しました。

沖縄一条園の崎山洋子園長は「この暑い中、たくさんのボランティアの方々に草刈作業を手伝って頂いて本当に感謝しています。敷地内が広いこともあって人手が足りなかつたのでとても助かりました。」とボランティアに感謝を述べました。



(写真全て、嘉手納基地広報局：川武 沙弥香 撮影)

夫や妻である軍人が遠隔地域へ展開中、その留守宅を預かる配偶者同士が会って交流を深め、お互いの経験を共有するということです。会場には、空軍兵のボランティアによる仮の託児所も併設されているため、子供をもつ親も安心して時間を過ごすことができます。嘉手納基地には軍人・軍属に伴い多くの家族が住んでいて、家族の不安を軽減できるような支援、相談機関があり、またこの夕食会のような支援プログラムを定期的に開催しています。

## 嘉手納基地ボランティア、嘉手納外語塾生と英会話交流

第18航空団広報局

## ENGLISH CLASS @ KLI!



2012年5月24日及び6月7日、嘉手納基地のボランティア約10名は嘉手納外語塾を訪れ、塾生約20名と英会話交流を行いました。これは今年度から始まった嘉手納外語塾との新しい取り組みで、ボランティアが塾生と毎回様々なテーマについて英会話をしながら、お互いに交流を図るというプログラムです。第1回目の5月24日のテーマは「Introduction - 紹介」ということで、まず始めに外語塾生はグループに分かれて外語塾の活動や構内をボランティアに紹介しました。次に、嘉手納基地のボランティアがそれぞれ家族や出身地の有名な観光地、好きなスポーツなど趣味を紹介しました。授業終了後、ブレイクダンスが趣味と知った塾生とボランティアの一人がダンスを披露し盛り上がる場面もありました。

第2回目6月7日のテーマは「Customer Service - 接客英語」。英語での電話対応や受付対応をボランティアがはじめに実演し、次に塾生が接客をする側、ボランティアが顧客という設定で英語でやり取りを行いました。始めはメモを見ながら読んでいた塾生も、慣れてくると暗記しスムーズに話す場面も見られました。ボランティアとして参加したブルック ビアーズ上等兵は「外語塾生の学びたいという意欲が見え、私達にも伝わってきました。とても楽しかったので次回もぜひ参加したいと思っています」と感想を話しました。

## スピーチプログラム - 講師 ポロック中佐

第18航空団広報局

嘉手納外語塾の塾生さんに英語の理解を高めてもらうとともに英語圏の社会人の話を聞くことで学生らのこれから社会参加に役立ててもらいたいという趣旨で、年に数回スピーチプログラムを提供させて頂くことになりました。毎回、嘉手納基地で様々な役職にある軍人や軍属が講師となり嘉手納外語塾を訪れます。第1回目の授業は6月21日に行われ、講師は第18任務支援群副司令官のピーター・ポロック中佐が務めました。

第18任務支援群の業務は人事・教育・福利厚生・通信・契約・警察等多岐にわたり、軍人・軍属・日本人従業員を含めおよそ4000名が同群で働いています。ポロック中佐は、家族、自身の略歴、趣味などについて話し、またリーダーシップについても意見を述べました。中佐は知日家で、いわゆる「ウチナーヌーク」、また那覇市にある某私立高校で柔道の練習にも通っているとのことです。講話中、できるだけ使用を控えながらも、ときおり日本語を交えながら、学生たちの笑いも誘っていました。自身の経験から外国語を学ぶことの難しさはよく理解できるとし、「しかしある日突然脳が『クリック』し、今まで聞き取れなかつた言葉がはっきりわかるようになった」と、英語学習に奮闘する学生らを励ました。中佐は、「日々の行いが人を創る」とし、毎日を正しく生きることの大切さを説きスピーチを締めくくりました。

## SPEECH PROGRAM

LECTURER: Lt Col Pollock



(写真提供：嘉手納外語塾)

嘉手納基地は、独自の交通規則を定めており、嘉手納基地内で運転するすべての人は、その規則に従わなければなりません。代表的な交通規則を紹介します。



信号のある十字路交差点で、赤信号待ちの際、一旦止まり、十分に安全を確認して大丈夫であれば左折可能です。(嘉手納基地のみです！他の基地では違反になりますので要注意。)



信号のない十字路や三叉路で、トップの標識に従い一旦停止、先に着いた車両に優先権があります。他の車両と同時に十字路で一時停止した場合、左側の車両に優先権があります。

一時停止の標識があるところでは、完全に停止し、左右をきちんと確認する。(きちんと停止しない場合、違反とみなされることがあります)



運転中の携帯電話の使用は禁止です。ハンズフリー機器はOKです



運転手、同乗者ともに、シートベルトの着用は必須です。  
嘉手納基地内において特に表示(50km、60kmなど)がないかぎり基本的に制限速度は時速40kmです。また、スクールゾーンで、

信号が点滅しているときの制限速度は時速25kmです



運転手が飲酒していないなくても、車内に酒類飲料の空き缶など容器があること自体、基地内では違法となっています。同様に、同乗者が車内で飲酒することも禁じられています。



(写真全て、嘉手納基地広報局：川武 沙弥香撮影)

オートバイで入域する際は、ヘルメット、ゴーグル、手袋、長袖のシャツ、ジャケット、昼間は明るい目立つ色の上着(夜間や視界の悪いときは蛍光色ベスト)、長ズボン、ブーツのような(脚部を守る)服装が求められています。

基地内の駐車場には、階級、障害者、妊婦などの理由で該当者に優先権を与えられた駐車場があります。また「15分間」など時間制限が表示されている駐車場もあります。該当しない車両は駐車違反取締りの対象になります。

運転中に、憲兵隊の車両より停止するよう指示を受けた場合は、憲兵隊員から接触があるまで車内で待機してください。

## 交通規則主なQ&A

Q. 基地内ではどのような交通違反が多いですか？

A. 運転中に携帯電話や通信機器を使用すること(Eメールも含む)です。最近は、スマートフォンなどの普及に伴い、前方不注意から発生する衝突事故が大幅に増えました。スクールゾーンでの速度違反もよくあります。その他、一時停止表示のある十字路で停止発進順番を守らない、また停止線で完全に停止しない違反も多いです。

Q. 違反のあった場合、どのような処罰がありますか。地元(日本人)従業員と駐留軍人 軍属 家族、いわゆるYナンバーの違反者で、その後の手続き的な違いはありますか？

A. 米軍は日本人運転手を検挙することはできません。しかし、同様の違反履歴の追跡 加点システムがあり、違反ごとに点数が加算され、一定の点数になると最悪の場合、基地内での運転する権限を失うこともあります。

Q. 基地内で他の車両にぶつけてしまいました。どこに連絡すればよいですか？

A. 基地内でしたら、098-961-2475/2476(緊急でない場合)、098-934-5911(緊急の場合)に連絡してください。負傷者のいない事故は、緊急でない場合と考えられます。負傷者がいる場合は、緊急回線に電話してください。基地外で、Y(またはEやA)ナンバーを持つ軍人 軍属の車両にぶつかった場合、110番にかけてください。日本の警察から、憲兵隊に連絡がいきます。

Q. 最後に、交通ルールに関して知っていたほうがよい情報ありますか？

A. シートベルトの着用は、運転手も含むすべての同乗者に適応されます。4歳以下または体重45ポンド(20kg)以下の同乗者がいる場合には、ベビー(またはチャイルド)シートの装着は義務となります。